

地域差に注目し災害時の情報収集方法を見る

～北海道「ラジオ」・東京「SNS」・西四国「テレビ」・沖縄「エリアメール」が高い傾向～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

- 調査結果 : ①地域別に見る災害時の情報収集手段
- ②年代別に見る災害時の情報収集手段

■ 調査結果

発災時に何を利用して情報を得るか、2019年1月に実施した最新の調査を元に、地域間の違いについて見ていく。

1-1 北海道はラジオ、東京はSNS割合が高い

最も重視する方法は、全国では「テレビ」が最も高く29%、次いで「エリアメール・緊急速報メール」が18%、「防災無線」が15%となった。

図1では東日本の結果を紹介している。特徴的な地域として、「北海道」はラジオの割合が全国で最も高い。2018年北海道胆振東部地震後の大規模停電により、テレビが見られない影響も考えられる。「東京」はSNS比率が最も高い。図3に示した通り、若年層はSNS割合が高い。こうした年代構成比が影響した可能性がある。

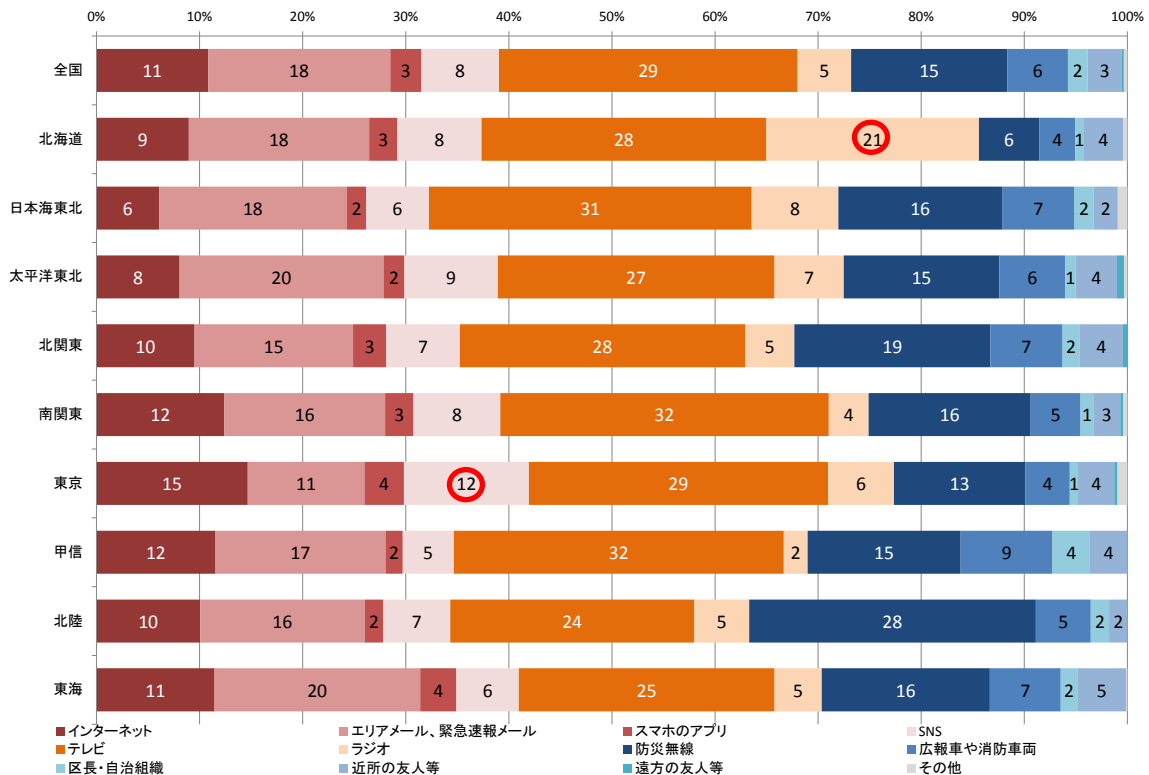


図1 災害時の情報収集方法（東日本）

2 — 西四国はテレビ、沖縄はエリアメール・緊急速報メールの割合が高い

次に西日本をみる。この中で注目したいのは、「西四国」。テレビの割合が全国で最も高い。西日本豪雨が影響した可能性がある。「沖縄」はエリアメール・緊急速報メールの割合が高い。

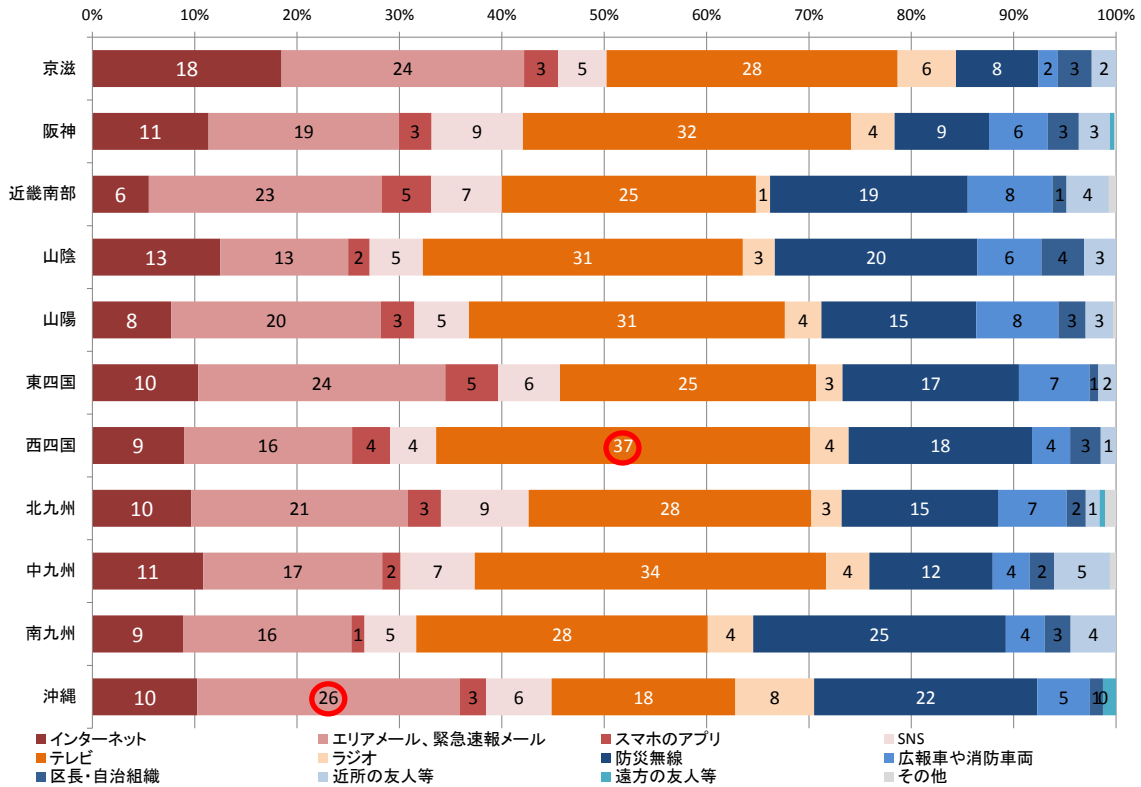


図2 災害時の情報収集方法（西日本）

3 — 20代はテレビを上回り、SNSが最も高い

最後に年代別の状況を確認する。大きく見ると若年層はICT重視、高齢層になるとメディア・公的重視となる。「20代」ではテレビを上回り、「SNS」が最も高い結果となっている。なおエリアメール・緊急速報メールはどの年代も1割を超えている。

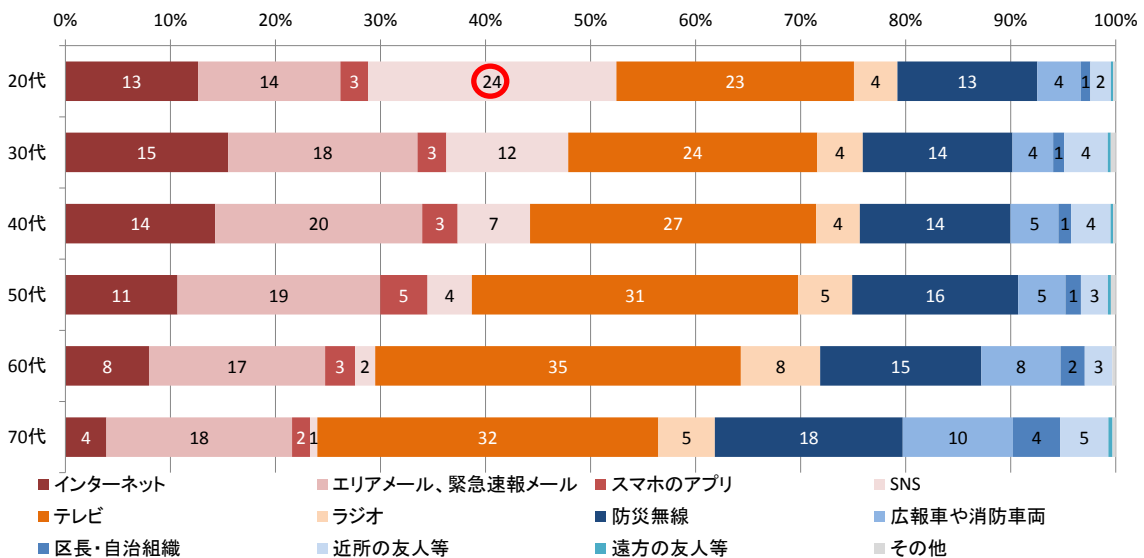


図3 災害時の情報収集方法（年代別）

昨年は豪雨・地震・猛暑など、様々な種の災害に見舞われた。災害の種類、影響の違いにより、情報を得る方法にも違いが出る可能性があることが、今回の調査結果から推察された。

当結果を参考にさせていただき、災害情報をどのようにして伝えていくか、検討していただきたい。

■スマートフォンのマナーリーフレット

当調査結果を反映した「データで見る防災ガイド」を公開しています。ご活用ください。

<http://www.moba-ken.jp/publications/index.html#a01>

■その他

防災調査に関する内容は、2018年10月27日（土）に開催された日本災害情報学会20周年記念大会にて、報告しています。

<http://www.jasdis.gr.jp/>

■調査概要

調査時期 : 2019年1月 調査対象: 全国、20～79歳男女 標本抽出法 : QUOTA SAMPLING
性年代・都道府県で割付6,525サンプル回収 web調査

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com 03-5156-1087